



# 全日本選手権 レース結果報告書

**DOG FIGHT R**

株式会社ドッグファイトレーシング

2014年9月

# レース

## Race

鈴鹿8時間耐久が終わりいよいよ後半戦がスタート。菅生からマシンのセットアップが進み、鈴鹿でも安定した走りを見せた藤田と共に九州・オートポリスサーキットに乗り込みました。後半戦のスタートですが、今回は4輪のスーパーフォーミュラとの同時開催となるため事前テストなしで金曜日の走行のみで予選決勝に臨みます。オートポリスは4月に走っているコースですが、その時からマシンの仕様は大きく変わっており、手探り状態から一気にマシンを仕上げなければいけない難しい大会となりました。また鈴鹿8時間耐久でコラボ下映画「パトレイバー」とのジョイントが後半戦も継続が決まり、レースファン以外からも注目を頂く参戦となりました。スーレの結果をご報告致します。

トンベイ名 : 全日本選手権 第6戦  
開催日 : 2014年9月14日  
開催地 : オートポリス(大分県)  
観客動員 : 人

### スーレ結果

JSB1000# 33 藤田 拓哉 予選 9位 決勝 8位



# 公式練習・予選

## Race

### 公式練習

新しくオートポリスに持ち込んだマシンは、フロントフォークの仕様変更、リヤサスペンションリンクの変更など足回りを大きく変更しており、4月開催時のデータを基に、菅生・鈴鹿と煮詰めてきたセットアップを生かした方向で藤田とコースインセットを決めて走り始めました。このセットが思った以上に決まり、走行1本目から自己ベストを更新。午前中の走行では総合7番手と上々の滑り出しを見せました。続く午後からの2回目の走行は、サスセットの方向を変更。リヤサスのバネレート変更などいくつかのセットアップを試すものの一長一短で、アップダウンとコーナーが繰り返されるオートポリスサーキットではトータルタイムをまとめることが難しい状況。セットの良否判定が出来たので予選はタイムアタックに集中することが出来るセットが決まりました。

### 公式予選

公式予選は今回もノックアウト方式となり、トップ10だけが次のセッションに進める。ここ最近では藤田の前後に野佐根選手や中富選手といった同じヤマハ車に乗るライダーがタイム的にも近いところで拮抗しており、ここにBMWに乗る酒井選手や、スポット参戦するスズキの生形選手などが加わり、混戦状態が続いている。少しのミスでトップテンに残れない厳しい戦いとなるため、藤田は最初のセッションで2セットのタイヤを使い切り、連続アタックでクリアラップのチャンスを見つけてタイムアップを図る作戦。そしてテスト時間の短い今の状態でロングランの走り込みも兼ねてのアタックに出ました。この狙いが当たり、1セット目ではクリアラップが取れずにタイムアップできなかった藤田ですが、2セット目のアタックの早い段階で9番手のタイムを記録。そのままロングランを続ける藤田のタイムは他のライダーに更新されることなく9番手でセッションを通過しました。続くトップテンチャレンジでは2セット目の中古タイヤでロングランを実施。クリアラップの中で安定したタイムを刻み、最終ラップにベストを更新して総合9番手を獲得。決勝に向け順調なセットアップが出来ました。

# 決勝

## Race

### フリー走行

オートポリスでは珍しいくらい3日間とも好天が続いた決勝の朝。フルタンクテストでコースインした藤田は今日も順調にタイムを刻み、決勝に向け課題はスタートと1周目のダッシュのみといった状態。

### 決勝

そして迎えた決勝。肝心のスタートでは反応は良かったもののマシンがウイリーしてしまい加速が鈍った藤田はオープニングラップを12番手で通過。しかしこの直後に最終コーナーで接触したマシンがホームストレート上で炎上して赤旗中断。スタートをミスした藤田にとっては救われる形となり仕切り直しとなりました。周回数が14周に短縮されて再スタートした決勝レース。藤田は今度はまずまずのスタートを切るが1コーナーで後続に抜かれ11番手にポジションを落としてコントロールラインを通過。前を走る酒井選手を2周目に抜き前を行く野佐根選手を追いますが、既に3秒以上の差が開いてしまっている。しかし集団の先頭に出た藤田は一気にペースを上げ、自己ベストを更新する1分50秒中盤のタイムで前を追い、1周で1秒以上早いペースで野佐根選手との差を詰めてゆきます。6周目に背後に追いついた藤田はホームストレートで野佐根選手に並び一気に1コーナーでパス。しかし野佐根選手も引かずここから2台の激しいバトルが始まります。コーナーごとに並びかける2台の激しい走りはトップバトルではないものの観客を魅了。最終ラップには中富選手も追いつき3台が団子状態で1コーナーへ入っていくドッグファイトが展開される。そして最終コーナーを立ち上がってきたとき野佐根選手に並ぶように立ち上がってくる藤田ですが一步届かず悔しい8位でゴールとなりました。タイム的には野佐根選手より1秒以上早いペースで周回できていただけに、一気に抜き去り前を行く生形選手を追えば、51秒台にペースが落ちていた生形選手にも十分追いつく距離でした。レースは途中で上位2台の転倒もあり8番手でしたが、6番手は十分狙える仕上がりにただただ、悔しい結果となりました。



# 全日本選手権ランキング

JSB1000 クラス チームランキング **9位**  
藤田 拓哉 ランキング **9位**

	開催地	観客数	天候	予選	決勝	藤田ベストタイム
Rd.1	鈴鹿サーキット	13000	雨	13位	リタイヤ	2'10"970
Rd.2	オートポリスサーキット	50000	晴	10位	8位	1'50"784
Rd.3	ツインリンク茂木	6500	晴	12位	9位	1'51"971
Rd.4	スポーツランドSUGO	3250	雨	10位	7位	1'36"817
Rd.6	オートポリスサーキット		晴	9位	8位	1'50"524
Rd.8	岡山国際サーキット					
Rd.9-1R	鈴鹿サーキット					
Rd.9-2R	鈴鹿サーキット					

【藤田拓哉全成績】

# 総括

## Race

レース結果には悔しいものが残りますが、藤田は今年になって急速に成長が見受けられます。同じヤマハに乗るライバルが増えたことも一因ではあると思いますが、高いレベルのマシンを経験した事で、マシンへの要求や、走りの考え方、捉え方が非常に高まってきていることを感じます。ライディング自体にも余裕が生まれてきており、コメントにも的確さが表れ始めています。そしてここに、アドバイザーとして加わった及川選手のライダー目線の解釈が加わり、走りの理解力が高まってきているのです。

今回もレースではスタートでの出遅れや、追いついてからの展開など今後の課題も多く残りますが決勝に向けてのセットアップや、集中力もよい流れをつかみ始めています。残り2戦(3レース)で、上位陣に喰らいつけるよう集中力を持って臨みたいと思います。

### 藤田拓哉コメント

「レースウィーク通して上手く乗れて来ていました。レーススタートしてから追い上げの走りをして、7位に追いついて抜きにかかり、更に上位を目指して走ろうとしていた時に、7位のライダーとバトルをしてしまいました。自分の方がラップタイムも速いはずなのになかなか抜いて前に行けないそんな焦りからミスもしてしまいました。結局レース終わって前でチェッカーできず、ブロックされて終わってしまいました。まだまだ弱いと痛感しました。もっと強くなれるように、走りだけではなく、気持ちのマネージメントも上手くやっていきます。来週、また岡山国際でレースがありますので応援よろしくお願いします。ご支援、ご声援ありがとうございました。」

ドッグファイトレーシング  
代表 室井秀明

# ギャラリー

## Race



株式会社ドッグファイトレーシング  
代表 室井 秀明

〒271-0061

千葉県松戸市栄町西4-1195-4

TEL047-703-3030 / FAX047-308-1122